



女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアができる専門職を育成します。
また、人との出会いとふれあいを大切にしたい教育を目指します。

アドミッションポリシー(入学者受入方針)

和歌山県立医科大学助産学専攻科では大学の教育理念に基づき次のような人を求めています。

- 科学的探究心と豊かな人間性・高邁な倫理観を希求する人
- 助産学を修得するための幅広い能力を有する人
- コミュニケーション能力を備えた協調性の高い人
- 地域母子保健に関心があり、国際的視野を希求する人
- 生涯にわたって自立と自律をめざす人

カリキュラムポリシー(教育課程方針)

教育課程は「基礎領域」「実践領域」「関連領域」の3領域で構成しています。

- 基礎領域では、助産師の役割や助産業務の遂行に必要な生命倫理、子どもの健やかな成長発達支援のための理論や支援方法に基づいた教育
- 実践領域では、助産診断・技術学を中心に講義や演習によって妊産褥婦・新生児の健康状態を診断しケアを計画し実践できる教育、また助産師による地域母子支援及び関係機関との連携する力を獲得できる教育
- 関連領域では、助産学研究や助産学に対する課題解決力や医療職として生涯にわたって自己研鑽力を身につける教育、及び母子保健を国際的な視点でとらえ、幅広く活動できる人材を育成する教育

ディプロマポリシー(修了証書授与方針)

和歌山県立医科大学助産学専攻科は所定の単位を修得し、以下の能力を獲得した者に修了証書を授与します。

- 助産師として高い倫理観を基盤として、対象を理解し尊重することができる
- 妊娠・分娩・産褥経過および新生児期において診断できる能力を備え、正常からの逸脱を判断し異常を予測したケアを提供することができる
- 女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対して、支援するための基礎的能力として知識・技術・コミュニケーション力を有している
- 国際的視野を持ち、保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して地域社会に貢献することができる
- 知的好奇心を持ち生涯を通じて自己研鑽することができる

修業年限 1年
入学定員 10名
実習施設

【病院】

和歌山ろうさい病院
ひだか病院
紀南病院
はまだ産婦人科
和歌山県立医科大学附属病院

【助産院】

岡本助産院
ちひろ助産院
むとう助産院
翠助産院

授業科目一覧

授 業 科 目		単位数		修了要件
		必修	選択	
基礎領域	助産学概論	1		必修 34単位 選択 1単位 以上
	妊娠期の異常	1		
	分娩・産褥・新生児期の異常	1		
	生殖医療と生命倫理	1		
	親子関係発達論	1		
	母子の栄養学	1		
実践領域	助産診断・技術学Ⅰ(妊婦)	2		
	助産診断・技術学Ⅱ(産婦)	2		
	助産診断・技術学Ⅲ(母子)	2		
	助産診断・技術学Ⅳ(思春期・更年期・老年期)	1		
	子育て支援論	1		
	健康科学教育論	1		
	助産管理	2		
	成育医療	1		
	助産学実習	12		
	助産管理実習	1		
	産科救急・新生児蘇生法	1		
	助産学研究	1		
関連領域	周産期のメンタルヘルス	1		
	アクティブバースへのケア		1	
	助産師と国際活動		1	
合 計		34	2	35単位以上



主な年間スケジュール

4月 入学式、オリエンテーション
前期講義、演習

5月 講義、演習

6月 地域母子保健
新生児蘇生法「専門(A)」コース修了認定

7月 技術テスト、前期試験
オープンキャンパス

8月 夏期休業（実習準備）

9月 助産学実習（9月～11月末）
・分娩介助
・継続事例への助産ケア及び1ヵ月健診
・保健指導など

10月

11月

12月 助産管理実習
実習報告会
冬期休業

1月 助産学研究発表会（事例）
後期講義
後期試験

2月 国家試験受験
入職前演習（教科外プログラム）

3月 修了式
受胎調節実地指導員



会陰縫合演習



新生児蘇生法(Aコース)



母子の栄養学：調理実習



マザークラス発表



助産学専攻科修了生からのメッセージ

助産師 土岐綾音さん
(令和7年度修了生)

和歌山県立医科大学附属病院 勤務1年目

助産学専攻科の1年間は、これまでに経験した中で最も密度が濃く、心身ともに大きく成長できた充実した時間だったと感じます。講義や演習は専門性が高く、課題も多いため戸惑うこともありましたが、同じ目標をもつ仲間と支え合いながら学ぶ日々は、私にとってかけがえのない時間となりました。また、少人数制のもとで先生方から丁寧な指導を受け、自分の課題を明確にしながら主体的に取り組むことができました。

9月からの助産学実習・助産管理実習では、自身の知識や技術の不足を実感し、悩み葛藤することもありました。しかし、臨床指導者や先生方の支えもあり、経験を重ねることで、できることが少しずつ増えていく喜びを感じました。実習で妊産婦さんからの「ありがとう」という言葉や、新しい命の誕生に立ち会えた経験から、助産師の責任とやりがいを実感しました。改めて助産師として母子を支えたいという思いをより強くしてくれました。この専攻科での学びと仲間との出会いを大切に、これからも努力を続けていきたいと思います。助産師を志す皆さまの入学を心より応援しています。



助産師 松浪そらさん
(令和5年度修了生)

和歌山県立医科大学附属病院 勤務3年目



助産学専攻科での学生生活は、講義や演習、臨地実習が密接に結びついた、充実した1年間でした。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を通して母子を継続的に支える助産師の役割を学びました。3か月間の助産学実習では、命を預かる責任の重さと判断力の重要性を学びました。思うようにいかないことも多く、悩みながら学ぶ日々でしたが、先生方や臨床指導者さんの丁寧な指導、仲間との支えあいの中で、助産師としての姿勢を身につけることができました。

就職後2年間は、新生児集中治療室（NICU）に配属されました。助産学専攻科で学んだ知識と技術をもとに、母体・胎児・新生児を一体として捉える助産師の視点はNICUにおいても大きな強みとなりました。ディベロップメンタルケアを通して、赤ちゃんが成長し無事に退院していく姿やご家族の安心した表情を見るたび、大きなやりがいを感じています。

助産師は産科だけではなく、幅広い分野で専門性を発揮できる魅力のある職業です。

助産師を目指す皆様の入学を応援しています。

助産学専攻科修了後の主な就職先

- 和歌山県立医科大学附属病院
- 紀南病院
- ひだか病院
- 和歌山ろうさい病院
- 大阪大学医学部附属病院
- 大阪公立大学医学部附属病院
- 関西医科大学総合医療センター
- 大阪母子医療センター
- 大阪ろうさい病院
- 淀川キリスト教病院
- 愛染橋病院
- 京都大学医学部附属病院
- 加古川中央市民病院
- 岡山医療センター